

ハ、みづから舌を喰切て、かしこへこそは捨にけれ、奉行の人々是をみて、いかに問責むればとて、舌有てこそ物をばいふべけれとてはなされたり。あら痛しやこの女房、泣々東山こさんの僧に参り、○中略

きえはつる露の命の終りには物いはぬ身となりにける哉、とかやうにかきとめ、つるに空しくなりにけり。

〔陰徳太平記三〕香川己斐討死之事

香川○行己斐○師ハ粟屋、伴品川ニ向テ、元繁○武田御討死無是非次第也、然バ當國ノ探題、源家ノ

正統武田殿ガ討死シ給ヒタルニ、弔合戦セザランバ、武田ノ瑕瑾ト云、且ハ付従タル國人等ノ耻辱ニテ候、イザサセ給ヘ、今夜是ヨリ引返シ、敵陣ニ夜合戦ヲカケ、討死スベキニテ候、○中行景辭

世ノ歌ヲ詠テ、物ニ書付タリケル、消ヌ共其名ヤ世々ニシラマ弓引テ返ラヌ道芝ノ露、香川兵庫助行兼、邁齡三十三、守爲武田元繁麾下之義、今月今日入敵陣、戦死畢ヌト書タリケレバ、師道モ是ヲ見テ、

殘ル名ニカヘナバ、何カ惜ムベキ風ノ木葉ノ輕キ命ヲ、己斐豊後守師道入道宗端、行年六十一、因同意趣、快死ト書タリケル、此スル程ニ、遠寺ノ鐘曉ヲ報ジケレバ、兩勢併セテ三百騎、有田ノ陣ヘ押寄、大音揚テ、是ハ香川兵庫助行景、己斐入道宗端ニテ候、昨日元繁討死ノ刻ハ、如御存、數十町隔テ、相合殿、桂殿ト合戦仕候ツル故、一同ニ戦死スル事ヲ不得候、然共一旦幕下ニ屬セシ義ノ難捨候ヘバ、弔合戦ヲ遂ニ一場ノ快死ヲ執テ、萬年ノ義名ヲ留メ、泉下ニ斷金ノ盟ヲ尋候ハント存

是迄馳來テ候、敵陣ノ人々、出合討取テ、高名ニ被供候ヘト呼ハリケレバ、元就○毛利是ヲ聞給テ、彼等ハ武田與力ノ兵ノ中ニハ、宗徒ノ者共也、幕下ニ屬セシ義ヲ重シ、是迄馳來テ討死スル事、誠ニ仁義ノ勇士也、可惜兵ヲ生ケテ、幕下ニコソ置マホシケレ、サレドモ當ノ敵ナレバ、出合討取、孝